

2F 絵付け体験コーナー

クラフトセンター 2階

真っ白なお皿やマグカップに自由に絵を描いて、オリジナル作品をつくってみませんか？お席が空き次第、随時受け付けております。作品は2〜3週間後のお届けです。



受付時間：10:00〜16:00

体験料：有料

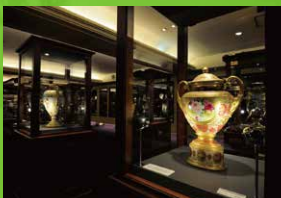
※詳しくはWEBサイトにてご確認ください。

3F, 4F Noritake Museum

ノリタケミュージアム 3階、4階

ノリタケの美と伝統に出会えます。

4階展示室では、明治から昭和初期までに製造・輸出された「オールドノリタケ」や、色鮮やかな画帖（デザイン画）をお楽しみいただけます。多彩な技法を用いた豪華で優美な世界をご堪能ください。



3階展示室には、1904年の日本陶器（現ノリタケカンパニー）創立以降、工業製品として作られたディナーウェアを中心に展示。時代とともに移り変わるノリタケデザインの変遷をご覧いただけます。

クラフトセンター フロアガイド

ノリタケミュージアム

4F

主にアメリカに向けて輸出された豪華な「オールドノリタケ」や美しいデザイン画をご堪能ください。

ノリタケミュージアム

3F

日本で最初に作られたディナーセット「セダン」をはじめ、数々のディナーウェアを一同に展示しています。また、企画展示コーナーも設けています。

クラフトセンター (絵付け工程参観施設・体験コーナー)

2F

熟練の職人による素描（すがき）の実演など、さまざまな絵付け作業をご覧いただけます。絵付け体験コーナー（有料）もあります。

クラフトセンター (生地製造工程参観施設)

1F

「原型製作」から「釉焼き」まで、流し込み成形による生地製造の工程を紹介しています。

※1F→2F→4F→3Fの順路がおすすめです。



アクセス ●公共交通機関をご利用の場合

JR・名鉄・近鉄「名古屋」駅 徒歩15分
地下鉄東山線「亀島」駅2番出口 徒歩5分
名古屋駅市バス6番のりば 乗車3分「ノリタケの森」下車すぐ
名古屋駅市バス「メーグル」のりば 乗車15分「ノリタケの森西」下車6分

●お車をご利用の場合

名古屋高速都心環状線「錦橋」出口から10分

定休日 ●毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始

開館時間 ●10:00〜17:00

入館料 ●大人及び学生500円、65歳以上の方300円、高校生以下無料

障がい者手帳をお持ちの方ご提示により無料

団体割引あり（30名様以上1割引、100名様以上2割引）

産業技術記念館との共通入場券800円

駐車場 ●隣接するイオンモールの駐車場をご利用ください。

ノリタケの森 クラフトセンター

〒451-8501 名古屋市中区則武新町三丁目1番36号

お問い合わせ TEL 052-561-7114 FAX 052-561-7276

ホームページ <https://www.noritake.co.jp/mori/>



2022.12 50,000



陶磁器の美を、知る、創る

Craft Center

ノリタケの森 クラフトセンター インフォメーション



ノリタケの森



**ポーンチャイナ
の原材料**
これらを細かくして
水を加え、どろどろに
したものを泥(でい)
しょうといいます。

1F,2F Craft Center

クラフトセンター 1階、2階

見学のポイント

ハンズオン展示

マークの展示物は体験型展示です。ぜひ実際に触れてみてください。
各工程のモニター画面に触ると詳しい解説がご覧いただけます



●転写紙印刷

専用の台紙に陶磁器用絵具を印刷、表面を樹脂の薄い膜で覆って「転写紙」を作ります。

●転写貼り

転写紙を水に浸して台紙からはがし、陶磁器にシールのように貼り付けます。

●吹き絵付け

スプレーガンを使い霧吹きのように絵具を吹き付けます。広い面や曲面が多いものにムラなく色を塗りたいときに行います。

陶磁器の美を、あらゆる角度から見て、知って

ポーンチャイナはどのようにしてつくられるか、ご存知ですか。
生地製造から絵付けまで、熟練の技と伝統を、ぜひご覧ください。

1 [原型製作]

粘土で形をつくり、石膏で型をとって原型をつくります。



2 [成形]

●ろくろ成形

円い皿やボウルはろくろ成形機で形を作ります。

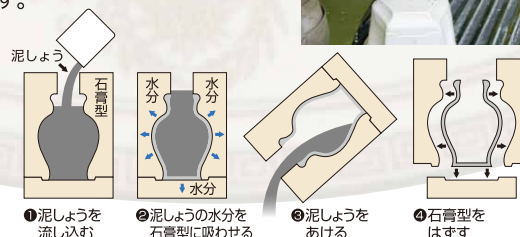


※展示のみとなっております

●流し込み成形

製品をかたどった石膏の型に泥しょうを流し込み、石膏の吸水性を利用して作る成形方法です。

1. 鑄込み (いこみ)



2. 組み立て

流し込み成形で出来上がった部品同士を組み立てて、ひとつの形にしていきます。



3. 仕上げ

型のつなぎ目や組み立てた接着面を整え、滑らかにします。



4. 乾燥



3 [締焼き]

最高温度1230℃で14時間かけて焼き締めます。



4 [施釉]

スプレーで表面に薄い釉薬の層を付着させます。



5 [釉焼き]

施釉後、最高温度1130℃で11時間かけて焼成をすると、釉薬が溶けて表面が半透明のガラス質になります。



釉焼き後の状態



7 [絵付け焼成]

絵付けを施した製品は約850℃で絵付け焼成を行います。絵付け方法によって焼成回数が異なります。



8 [金仕上げ]

カップのハンドルやお皿や花生の縁(ふち)などの金線は、ひとつひとつ手作業で仕上げていきます。



9 [金焼成]

金仕上げしたものを約800℃で焼成します。

10 [品質検査]

視覚・触覚・聴覚を駆使して傷やゆがみがないか厳しくチェックします。